

- ★ ふさおとめ、ふさこがねの幼穂形成期は3日早い
- ★ 穂肥は遅れないように施用しましょう

1 君津地域の生育概況

6月6日以降気温は高く、関東甲信地方は6月21日に梅雨入りしました。気象庁によると今後2週間は気温が高いと予想されています。各品種の幼穂形成期は、4月21日植えの「ふさおとめ」は6月10日頃、4月20日植えの「ふさこがね」は6月12日頃でした。4月23日植えの「コシヒカリ」は6月21日頃から、4月30日植えの「粒すけ」は6月26日頃から幼穂形成期を迎える見込みです。

現在の生育は、草丈はやや長く、葉色は平年並み又は濃く推移しています。茎数は、目標生育量に達しているほ場もありますが、「ふさこがね」はやや少ない状況です。

ほ場ごとに生育にばらつきがありますので、生育状況に応じて穂肥の時期と量を決めましょう。

2 生育調査ほの調査結果※（6月15日）

品種		田植日	葉令 (枚)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/㎡)	単葉 葉色
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	R6年	4/21	10.1	57.0	33.2	524.6	42.6
	平年値	4/19	11.0	56.1	36.5	572.5	42.3
	平年比	+2	92%	102%	91%	92%	101%
ふさこがね (木更津市)	R6年	4/20	10.4	47	17.9	273.2	45.5
	平年値	4/19	10.2	45.5	20.9	401.9	40.9
	平年比	+1	103%	103%	86%	68%	111%
コシヒカリ (君津市)	R6年	4/23	9.5	60	35.5	539.6	39.3
	平年値	4/25	9.9	54.3	33.8	529.9	39.8
	平年比	-2	96%	111%	105%	102%	99%
粒すけ (君津市)	R6年	4/30	8.7	48.0	33.8	469.8	36.7
	平年値	5/3	10.0	45	26.7	430	42.6
	平年比	-3	87%	107%	127%	109%	90%

※平年値について、粒すけ、コシヒカリは令和2～5年の平均、ふさおとめは令和3～5年の平均です。ふさこがねは今年度より調査地点を変更しているため、参考値となります。

※調査地点の植付密度の違いから、株当たり茎数と面積当たり茎数の間で平年値との関係が異なる場合がございます。面積当たり茎数を優先して参照ください。

3 これからの管理のポイント

① 「コシヒカリ」「粒すけ」の幼穂形成期（出穂 25 日前・幼穂長 1mm）の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測	穂肥適期の目安
コシヒカリ	4月20日	6月18日頃	幼穂形成期7日後頃～15日後頃の間
	5月1日	6月27日頃	
粒すけ	4月20日	6月19日頃	幼穂形成期から7日後頃

※穂肥の施肥量は窒素と加里を 10a 当たり成分量で各 3kg が目安になります。

※幼穂形成期の 10 日～15 日後までが冷害危険期になります。

② 幼穂形成期の目標生育量

下の表を参考に、生育量が目標を超えている場合は、施用適期の範囲内で追肥時期を遅らせ、減肥しましょう。また、近年、収穫期前の降雨や強風により倒伏するほ場もみられますので、下の表を参考に、施肥量を調整しましょう。

品種	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)		
		砂質土	壤質土	粘質土
ふさおとめ	55 以下	570～620 (31～34 本)		520～570 (29～31 本)
ふさこがね	60～65 以下	450～500 (25～27 本)		
コシヒカリ	70 以下	430～560 (23～30 本)		
粒すけ	65 以下	590 (32 本)	550 (30 本)	

※茎数の () 内は 60 株/坪植え時の 1 株当たり茎数の目安

③ 今後の水管理について（節水へのご理解とご協力をお願いします！）

幼穂を確認したら入水を開始し、出穂 3 週間前から出穂 2 週間後までは湛水管理を行いましょ。

また、冷害危険期となる幼穂形成期 10～15 日後（出穂期 15～10 日前）に、日平均気温 20℃以下の低温の持続が予想されるときは、幼穂を保温するため、「深水管理」を行いましょ。

※三島ダムの水位低下による湧水への対応として、節水へのご理解とご協力をお願いいたします。

④ 斑点米カメムシ類の防除

出穂期前後の畦畔の草刈りは、カメムシ類を水田の中に追い込んでしまいます。畦畔雑草は出穂の 2 週間前頃までに刈り取り、出穂後は、収穫まで雑草が出穂しないように草刈りしましょ。

⑤ 主要病害の防除

いもち病

止葉などの上位葉に病斑がある場合は、穂いもちに移行し減収するおそれがあることから、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除しましょ。

稲こうじ病

穂ばらみ期が低温の場合や降雨が多い時に発生が多くなります。前年に多発したほ場では出穂期 10 日前までに、薬剤防除をしましょ。

紋枯病

茎数が多いと発生しやすくなります。また、紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。飼料用米品種でも発生がみられるので注意しましょ。

⑥ イネばか苗病の抜き取りのお願い

本田で発生したイネばか苗病の株を放置すると、胞子が飛び、周りのほ場にも伝染します。特に、採種ほ場の周辺で本病が発生すると、優良な種子の生産に支障をきたします。本病の発生が見られたら、採種ほ場の出穂前までに罹病株ごと抜き取り、埋却処理するなどの対応について、ご協力をお願いします。

-郵便で配信している方へお願い-

通信費削減のため、「あぜみち」の配信を、郵便から、電子メール又はFAXへの切替えを進めています。変更いただける方は、下記まで御連絡ください。

連絡先 石川（電話）0438-23-0299（メール）k.ishkw75@pref.chiba.lg.jp

※ 次号は「7月5日頃」発行予定